「学童期の子どもをもつ親の学習プログラム」活用手引き

プログラム追加の趣旨

平成20年3月に完成した学童期の子どもを持つ親の学習プログラムでは、「健太郎君とお父さん」「参観日の母親の姿」「子ども同士のけんかに親が関わり」「運動会は誰の競争？」「地域との関わり」という５つのエピソードを作成しました。そのプログラムを使って、多くの方々で自分や人の子育て、地域の子育てを見つめ直すことによって、大人の私たちも成長したいと考えました。5つのエピソードでは、小学生の自立の過程や様子、その後押しに親がどのように関わればよいか、また子どもの成長のために必要な環境作りや、大人の規範意識、そして地域で育てる子育て支援とは等、様々な視点から子育てを考えていただけたと思います。そこで今回は、新たな視点を加えてエピソードを追加することになりました。学童期のお子さんを持たれる保護者の方々には、ぜひ学校と家庭の信頼関係を築いていただくことが子ども達の育ちには重要であることを理解していただくために、両者の役割を考えるエピソードとしました。一つ目は学校での出来事を家で話す子どもにどのように対応できるかを考えるエピソード。二つ目は地域に開かれた学校を目指すとともに、地域からも支えられる学校ですが、限られた時間の中で、学校はどこまで対応できるのかを一緒に考えるエピソードとしました。以下にそれぞれのエピソードの使い方の例を示したいと思いますので、参考にしながら、色々な使い方をお試しください。

3の表６　プログラム活用の流れ（⑥エピソード　担任の先生はね・・・）

時　間	活　　動	留　意　点
3分	1　各自、娘や母親の立場を想像しながら、エピソードを黙読しましょう。	○子どもが学校の話をしてくれる様々な場面を思い出してみましょう。喜怒哀楽を伴った様々な報告があるでしょう。
5分	2　自分が父親だったら、二人の会話を聞いていて、どのように会話をつなげるでしょうか。グループワーク①～③に答えましょう。	○母親と娘の話をしばらく聞いている父親になったつもりで、会話をつなげてみましょう。何も言わない場合もあるでしょうか？
15分	3　母親と娘と父親役を交代しながら、グループの全員が一度は父親になって、自分の書いた父親の会話を読み、演じてみましょう。	○父親の会話で、家族の感情がどのような方向へ向かうか、様々な局面を考えてみましょう。
15分	4　このエピソードの母親の対応を変えて読み合ってみましょう。	○母親の対応を変えると、娘の会話も変わるでしょうか？変わらないでしょうか？グループで、色々な対応の仕方ができることを実感してみましょう。
15分	5　家族の会話を通して、娘はどのような気持ちになっていくのか、想像してみましょう。	○娘はこれから家で学校の話をどのようにするでしょうか。学校の先生に対してはどのような態度になりそうでしょうか。家庭と学校の関係はどうなるかなど、様々な視点で話し合ってみましょう。
適宜	6　各グループの代表的な意見を紹介し合いましょう。	○会場全体で、同じ意見や異なった意見を共有し合って、思考の視野を拡大しましょう。

3の表7　プログラム活用の流れ（⑦エピソード　学校はどこまで対応できるでしょう？・・・）

時　間	活　　動	留　意　点
10分	1　各自エピソードに登場する人々の要求を読んで、学校が対応した方が良いと思うか、対応する必要はないと思うか、判定してみましょう。	○それぞれの人が言っていることは、もっともだと思いがちだが、全てに対応すると学校はどうなるのか、学校の立場にもなりながら考えてみましょう。
グループワーク		
10分	2　この16人の要求以外にも、学校への様々な要求について例を出し合いましょう。似たような要望が、学校には多く持ち込まれることを認識しましょう。	○学校と、保護者だけではなく、地域や、様々な職業の人の気持ちになって、子どもの育ちにはどのような役割分担ができるのかを考えてみましょう。
30分	3　各自、学校の先生や、管理職の立場、あるいは、ここに登場する人々になって、会話をしてみましょう。	○たとえば、校長先生と市役所の人の会話。担任の先生と保護者の会話というように。
適宜	4　各グループで、考えさせられる会話や、興味深い会話があったら、紹介し合いましょう。	○子どもの育ちを考えたら、どのように対応することが望ましいか、答えは一つではないのですが、様々な立場になって考えてみましょう。